

※文字の大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) など文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) など表記の上、貼り付けてください。

※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。

※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 1】

<エントリーシート>	部門 校内研修部門	学校名・氏名 鹿児島市立伊敷中学校
※ 事務局記入欄 No. : C-26	活動名 汎用的な資質・能力の育成 ～教職員と生徒の意識の共有に向けて～	

課題の設定 :

本校では「新しい時代を切り拓く資質・能力を身に付けた生徒の育成」という研究主題を掲げ、3 年前からアクティブラーニングに関する研究を進めている。昨年度までは「教科で目指す資質・能力」を中心に研修を進め一定の成果が得られた。一方で、カリキュラム・マネジメントの一つの側面である教科横断的な視点はなかなか浸透せず、職員や生徒の認識が低いことが見えてきた。そこで今年は、「汎用的な資質・能力」の育成に焦点を当てて研究を実施することにした。



方針・計画 :

職員研修や教科部会において、「汎用的な資質・能力」のループリックを基に、授業中における具体的な生徒の姿を共有する。また、「汎用的な資質・能力」を生徒と教職員が共に考える場を設定したり、ループリックシートを生徒に持たせたりすることで、日々の授業や教育活動で生徒自身が意識して活動できるようにする。

活動内容 :

1 職員研修において、ループリックを具体化し共有する取組。

本校ではこれまでに「汎用的な資質・能力」を（課題発見力・情報活用力・論理的思考力・協働する力・メタ認知）と捉え、ループリック化する試みを行っていた。しかし、資質・能力を定義づけるだけでは、職員間に浸透しない。そこで、生徒の生活場面で言えば、また教科の授業レベルで考えれば具体的にどういった姿になるのか、職員研修で話し合い、全教職員で共有化を図った。

【BEFORE】

	①課題発見力
レベル 4	日常生活の中から自ら課題を発見していくことができる。

【AFTER】



生徒の具体的な姿を想定して、指標を捉え直し、イラストや発言例を加えて生徒に伝わるループリックを目指した。

2 職員研修で話し合った「資質・能力」観を生徒に伝える取組。

「なぜ資質・能力なのか」。改めて未来を見据えることで、教員の生徒観を編み直す。また、それを生徒自身にも伝え、意識を共有することを目指して職員研修を行った。

【内閣府が示す新たな社会ソサエティ 5.0 を職員で視聴し、生徒観を編み直す】



【生徒自身にもソサエティ 5.0 を見せ、教員の思いや願いを伝えてループリックを手渡す】



この職員研修によって、未来社会の変化に戸惑いつつも、改めて研究の意義を捉え直し、資質・能力の育成に向けて具体策を話し合うことができた。その具体策の一つとして、ループリックを生徒と共有することで、生徒自身が資質・能力を語り出すようになり、職員が手応えを感じている。

活動の成果 :

- 学校全体として何を目指してどのような研究・実践をしていくべきかを職員間で意見交換を行うことによって、汎用的な資質・能力について理解を深めることができた。
- 生活場面や各教科の授業レベルで生徒の姿を具体化させることによって、汎用的な資質・能力の育成のための手立てや見取り方等を検討するようになり、実践へつなげることができた。

アピールポイント

(アイディアや工夫) :

○ 「汎用的な資質・能力」のループリックの活用

